



文部科学大臣賞(2件)

文部科学大臣賞

「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園

所在地

さいたま市桜区

受賞テーマ

ペットボトルの回収とリサイクル活動

同校環境・サービス科では、ペットボトルの回収とリサイクル活動を開校した平成 19 年より自ら実施している。それまでもペットボトルの回収活動は学校教育の中でおこなわれていたが、同校は教育課程に環境学習を位置づけ、リサイクルを専門に学習する学科、環境・サービス科を設置している。

回収は専門教科の授業で、おもに 3 通りの方法を用いておこなっている。一つ目は生徒がリヤカーを引き近隣各所に出向いての回収である。区役所や自治会、協力店舗を週 2 回のペースで回り回収している。二つ目は校内で生徒や職員が飲用したペットボトルを生徒が委員会活動の一環として回収している。三つ目は近隣住民にペットボトルを直接学校まで持参してもらう回収である。校内に回収スペースを設け、自由に持参してもらい、その数に応じてリサイクルした植木鉢を渡している。

開始年度は年間 5 万本 (500m 1 ペットボトルに換算した場合) の回収であったが、年を追うごとに回収量は増加し、次年度は 7 万本、3 年目以降は 10 万本以上を回収している。昨年度までに回収したペットボトルの総量は約 40 万本に達し、重さにして 10 トンをはるかに超える。

そして、同学科の最大の特徴は回収したペットボトルを植木鉢等にリサイクルしていることである (他に小物入れ、器、プレートにもリサイクルしている)。専門教科の実習用に「粉碎機」「廃プラスチック溶融機」「20 トンプレス機」を設置し、生徒がこれら进行操作することによりペットボトルは植木鉢にリサイクルされる。また、回収したペットボトルは、本体のみならずキャップ、リング、ラベルに至るまで植木鉢にリサイクルしている。500m 1 ペットボトル約 7 本で植木鉢 1 個が出来上がり、これまでに約 7 千個を超える植木鉢にリサイクルしてきた (一部のペットボトルは粉碎した後、チップとして業者へ渡している)。

リサイクルした植木鉢は、地域住民に頒布し、学科の活動を広く周知すると共に環境に関する啓蒙に役立てている。また、夏季休業中に近隣の小学生を対象にした「小学生環境教室」を開催し、ペットボトルが植木鉢にリサイクルされる工程を実体験させ、環境に対する意識向上の一助をなしている。

これらの活動を通して、生徒のみならず、地域住民、もしくは小学生のペットボトル回収に対する意識はこの 4 年間で飛躍的に向上したと言える。その裏付けとして、校内に持ち込まれるボトルの数、回収の際に出されたボトルの数が、先述のとおり初年度に比べ 2 倍以上に増加したことが挙げられる。また、環境学習教室を開催した小学校からは、教育現場で使用する植木鉢を、従来の既製品から本校で作成したリサイクル植木鉢に切り替えるなどの動きも見られるようになった。

<自治会での回収作業>



<リサイクル品の完成>



<小学生環境学習教室>

